



# 南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成29年9月 1日

校長 福田 俊彦

## 人とかかわる そこで得ることを

校長 福田 俊彦

21日間、連続して降雨を観測した東京でした。それを聞いた時には、「えっ。」が最初でした。涼しさを感じることもあった今夏でしたが、まさかこのような記録が作られているとはという思いがあったからでしょう。天候に限らず、みなさんも経験のないようなことに出会っていませんか。年々、経験値を超えていくような出来事に出会うことが増えているように感じています。先行きが不透明な時代であるということが言われて長い時を刻んでいます。新たなひとつの文化が生まれ、それまでに創り上げられてきた文化が失われていくことも言われてきました。

さて、今「人工知能」という言葉をいろいろな所で見聞きします。人工知能の開発は、社会の多くの場所でこれまでにはない恩恵を生み出していきます。生活をよりよくする働きをしていくことでしょう。その反面、何かなくなってしまう大切なこともあるのではないかと考えてしまいます。大分昔の話になってしまいますが、バスとか電車に乗ることが少ない頃のことです。切符を買うのは、今のような機械ではありません。もちろん電子マネーもありません。駅舎では、その窓口に行ってその奥に座っている人に、「〇〇駅まで子供一枚。」と伝え、お金と引き替えに切符を受け取りました。硬券というものです。改札口では挨拶とともに硬券にはさみを入れてもらいました。バスに乗れば、回ってくる車掌さんに行き先を伝え、お金を渡し切符を受け取っていました。今、このようなことをしていたのでは、大混雑を引き起こし、大変なことになるでしょう。ですから、今の時代には、今の時代に即したことがいいのでしょうか。電子マネーのカードによるタッチで乗り降りする。運転手さん一人で全てをこなす。こんな合理的なことが私たちの生活を創っています。

反面、このような合理化により出会うことが難しくなってきたこともないでしょうか。人とのやりとりです。人とのやりとりから得ることは知恵や知識だけではなく、相手の思いを受け取ること、自分の思いを届けるということも多様に経験できます。この夏休み、子供たちは、日常とは異なる状況で、いろいろな方とのやりとりを経験したのではないのでしょうか。その中で感じたこと、考えたことは、他では得ることのできないものです。

2学期には、運動会、学芸会など、学級を超えた仲間とのかかわり、地域、保護者の方々とのかかわりが生まれてきます。このことを仲間とともによりよい学校生活を創っていくよい機会として子供にも伝えていきます。今学期もご理解とご協力の程、宜しく願いをいたします。